

下太田に残る知られざる毘沙門天と鰐口

わにぐち

一、龍田神社の毘沙門天

茂原市下太田の萬光寺は、千葉県の文化財に指定されている。承永十六年（一四〇九）在銘の梵鐘の存在で知られています。しかし、そのすぐ上

にある、現在、龍田神社と呼ばれている祠はあまり知られていません。江戸時代中期の天明の頃記された『太田郷鎮守毘沙門天王縁起』（『茂原の古文書史料集第十九集』所収）によれば、十五世紀末に土気城を再興した酒井小太郎（定隆）の父にあたる酒井左衛門佐貞重が、武運長久を祈願してこの地に祠を建立したとされています。そして安置されたのがこの毘沙門天だということなのです。



龍田神社内に掲示された記録によれば、この毘沙門天は延享四年（一七四七）に改装され、さらに平成八年に補修され現在に至っています。

また、前記の縁起には「天正十九年（一五九一）十一月権現様御鷹狩トシテ東金江成ラセラレ、酒井家之古城之濫觴毘沙門天起立聞シ召サラレ、太田郷江成ラレシ毘沙門天江參詣遊サレ、御武運ヲ御祈誓アリ（中略）酒井様御建立被成候御堂ハ丸キ金ノヌリ柱ニテ」云々と記されています。これによれば、徳川家康が酒井氏建立の堂にある毘沙門天に参詣し、武運長久を祈願したということになります。

二、毘沙門天へ奉納された鰐口

毘沙門天に奉納されたと思われる鰐口が近年萬光寺から発見されました。それには、次の文字が刻まれています。

「大毘沙門奉寄進鰐口 上

総国殖生郡 承応四乙未歳二月三日下太田村人数廿八人」



文字通り承応四年（一六五五）に当時の下太田村の二十八人の村人がこの鰐口を毘沙門天に奉納したということが記されており、当時の信仰の厚さが窺えます。この鰐口も江戸時代初期に制作されたものであり、毘沙門天同様貴重な文化財であります。

現在、新版『茂原市史』の発刊に向けて多方面にわたって調査がなされていますが、後世に残すべき文化財が保存され、研究成果が広く普及することを願って止みません。

小川力也

茂原市文化財審議会委員

問合せ

生涯学習課（9階）

TEL (20) 15559 FAX (20) 16007

文芸コーナー

夏草の原

山本 明美

溢れる緑の中を
自由に駆けていた頃
まるでシャワーの様に
朗らかに
温かに降り注いでいた
あの声

ただ立っている
その耳元で
眠っている時でさえ
絶え間なく
快く漂っていた
あの声

大地が
空が
風が
水が
そして沢山の人が発する
柔らかな声

すぐ傍で
きつと誰の耳にも
届いていた筈の
あの鮮やかな声が今は
うまく聞き取れない
呼び戻したくて
確かめたくて
目を閉じ
心を空にして
古里の原に似た
夏草の中に立っている

◎選評 斎藤正敏

いつ何処にいても、人は懐かしい人や物を思い出します。記憶とはそんな呼び戻したいもの、確かめたいものとの対話です。まるでシャワーのように朗らかに温かく降り注ぐあの声が夏草の中を漂っています。

- 偶数月は「俳句・短歌・川柳」を、奇数月は「詩」を掲載しています。
 - 投稿は楷書でお願いします。作品・氏名にふりがなをふってください。
- ※詩の原稿送付先（直接選評者へ）〒297-0032 茂原市東茂原7番地 斎藤正敏宛。
「広報もばらの詩」と朱書きしてください。原稿は30行以内をお願いします。

